



# 風水害の発生する時季です

# 身の回りの備えを万全に

太正十二年九月一日に発生した関東大震災の悲惨な教訓を生かすため、毎年九月一日は「防災の日」に定められています。今年も地震による大きな被害はありませんが、新潟県・福井県での豪雨と、四国に上陸した台風の影響で多くの人命が奪われ、家屋の倒壊など大きな被害が発生しました。しかしこれからは本格的な台風シーズン。被害を最小限に抑えるため、風水害の注意点と対策を紹介します。

問い合わせは生活課 890 6238へ。

平成13年8月の台風11号の影響で増水した荒れる利根川



## 過去には本市でも大雨の被害

本市は、「水と緑と詩のまち」といわれるように、市内を利根川や広瀬川、桃ノ木川などが流れ、これらの河川が都市景観に大きな影響を与えています。しかし、古くから本市でも水害が多く発生しています。特に昭和二十二年のカスリン台風では、市内の大きな面積を占める旧利根川流域地帯のほとんどが水没しました。また、このカスリン台風の翌年の昭和二十三年にはアイオン台風、同二十四年にはキティー台風と、三年続けて



## 新潟豪雨災害に出動しました

## 被災地で住民292人を救出



被災者から情報収集

ゴムボートなどを使い夜を徹しての救助活動

7月13日、新潟県で発生した集中豪雨災害に緊急消防援助隊群馬県隊として広域消防本部からも消防職員延べ37人を派遣。三条市内で救助活動を行い、浸水した家屋などに孤立した住民292人を救出しました。

台風の被害を受けています。最近では、昭和五十六年の台風15号、同五十七年の台風10号、同五十八年の台風18号などが、大きな被害をもたらしました。

昭和六十一年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水被害が多く見られます。特に平成九年九月の集中豪雨では、一時間の降水量が100を超え、四百軒以上の建物などに被害が発生しました。昨年からは今年にかけて、本市への台風直撃はあ

りませんでした。注意が必要です。

## 集中豪雨には特に注意して

集中豪雨は狭い地域に短時間で集中して雨が降ります。そのため、中小河川のはらんや土砂崩れ、がけ崩れによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地、扇状地などでは、気象情報に注意し、万全の防災対策をとりましょう(表1・2)。